

学習評価の充実のために

新学習指導要領が、いよいよ本年度から小学校では全面実施となりました。中学校では令和3年度全面実施に向け、準備を進められていることと思います。新学習指導要領では求められる資質・能力が三つの柱で整理され、それらの育成がバランスよく実現できるよう留意する必要があります。学習評価についても4観点(国語のみ5観点)から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到変わっています。今回は、特に注意して欲しい点として「主体的に学習に取り組む態度」の評価と、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」、観点別学習状況の評価と評定への総括について取り上げます。

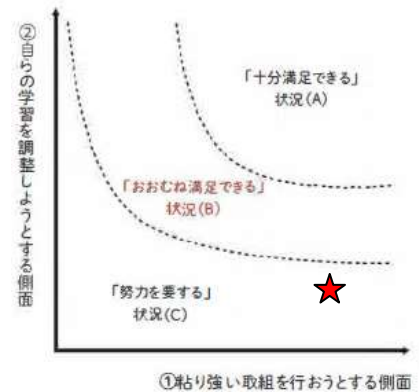
主体的に学習に取り組む態度の評価

各教科等への関心については従前の「関心・意欲・態度」でも重視されていましたが、「主体的に学習に取り組む態度」では、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組もうとする態度を評価するという趣旨が改めて強調されています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価します。

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる中で、右図の★印のような「努力を要する」状況(C)にいる児童生徒を見過ごさず、支援して、Bに引き上げることが大切です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



★印の児童生徒は、①粘り強い取組は行えているが、②学習の調整ができていない状況です。学習の質を高められるよう支援する必要があります。

振り返りシートの例

わかったこと・大切な考え方など	まだはっきりしないこと・知りたいこと
小单元1	
小单元2	
小单元3	

学びの足跡が残るように振り返りシートなどを活用することも評価方法の工夫の1つです。その際、「分かったこと・大切な考え方など」「まだはっきりしないこと・知りたいこと」等といった視点を与えることも大切です。

客観的な評価を行うためには上記のように多面的な側面から評価しますが、児童生徒による自己評価から見取る際には、小单元の学習の結果や過程の振り返りから、学習に見通しを持って取り組むことができているか、自己の学習の質を高めるための調整を行えているかを観察します。

小单元などの数時間の区切りで時間をとり、教科書、ノート等を見直しながらかゆっくり自己の学習について振り返る機会を設けることも考えられます。

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

実際に評価をしていく中で、毎時間全児童生徒の学習状況を記録に残すことは難しく、現実的ではありません。教師は指導することに十分な時間と労力をかけられるように、日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かす「指導に生かす評価」に重点を置きつつ、単元の中で「記録に残す評価」を計画的に位置付けることが大切です。

「指導に生かす評価」

毎時間行う評価です。例えば、単元の前半では努力を要する状況の児童生徒を中心に見取り、単元や本時の目標を達成するために必要な手立てや支援を行うことも考えられます。目標の実現のために、児童生徒の学習状況を机間指導等で適切に見取って支援し、つまずきの確かな解消を図ります。

「記録に残す評価」

指導した内容について、児童生徒の達成状況を見取り、全員分記録に残し総括するための評価です。そのため単元のまとまりの中で指導した内容の達成状況が適切に見取れる段階で評価します。1回の授業で3観点全てを評価するのではなく、「記録に残す評価」の場面を精選することが重要です。

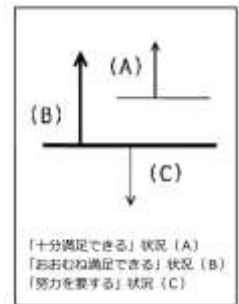
指導と評価の計画イメージ

時間	学習活動	重点	記録
1	□□	知	⋮
2	□□	思	⋮
3	□□	知	○
4	□□	態	⋮
	⋮		

空欄は指導に生かす評価、○は記録に残す評価を表しています。

観点別学習状況の評価と評定への総括

評価規準を作成して実際に評価するには、右図のように、児童生徒を評価するときの実現状況を設定します。設定した評価規準に照らして、まず、「おおむね満足できる」状況（B）か、「努力を要する」状況（C）かを判断します。「おおむね満足できる」状況（B）と判断されるもののうち、児童生徒の学習の実現の程度について、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるものを「十分満足できる」状況（A）とします。



観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果を A、B、C の組合せ、又は、A、B、C を数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階、中学校では5段階で表します。

小学校	3：「十分満足できる」状況と判断されるもの 2：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 1：「努力を要する」状況と判断されるもの
中学校	5：「十分満足できるものうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの 4：「十分満足できる」状況と判断されるもの 3：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 2：「努力を要する」状況と判断されるもの 1：「一層努力を要する」状況と判断されるもの

※中学校では、「十分満足できる」状況が4です。

A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、下記の「学年末における評定への総括の例」のようにするのが適当であると考えられます。それ以外の場合は、各観点の A、B、C の数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要があります。

なお、評価の結果が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合については、児童生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなどの対応が求められます。

学年末における評定への総括の例

観点別評価	合計値	評定 (小学校)	評定 (中学校)
AAA	9	3	5 または 4
AAB	8		
ABB	7	2	3
AAC			
ABC	6	1	2 または 1
BBB			
BBC	5	1	2 または 1
ACC			
BCC	4	1	2 または 1
CCC			

現行で「AAAA=5」としている中学校は、「AAA=5または4」とした場合、生徒や保護者への丁寧な説明が必要です。

学習評価の参考資料

各 Web ページから DL 可能です。



「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」
令和2年2月
岡山県総合教育センター

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
令和2年3月国立教育政策研究所

